

萬福寺

大谷派 神奈川県足柄下郡箱根町

萬福寺は、大谷派寺院で湘南組に属している。かつて、箱根権現金剛王院東福寺（真言宗）の末寺から、僧智元によって、慶長5年（1600）、真宗に改宗したと伝えられている。山号は改宗時には「法淵山 萬福寺」。明治になって山号を「箱根山」と改めた。

親鸞聖人は、帰洛の途中、箱根権現の示現を受けた神官たちによって温かく迎えられた。3日3晩この地に留まれ、聖人は自作の御影と十字名号を箱根権現に授与されたと伝えられており、萬福寺はその伝承を今に伝えている。

明治の廃仏毀釈の折、萬福寺は、箱根権現別当から、夢告をされた阿弥陀如来像、聖人自作の御



萬福寺

影及び十字名号を譲り受けた。

そのうち、聖人自作の御影と十字名号は明治の末頃、東京の浅草本願寺（現・東京本願寺）の報恩講にご開帳したあと、箱根に持ち帰ることなく浅草本願寺に寄託された。

なお、示現をされた阿弥陀如来像は、引き続き萬福寺が所蔵している。

阿弥陀如来立像

神奈川県足柄下郡箱根町 萬福寺所蔵

萬福寺に奉安されている阿弥陀如来像は、奈良時代の僧、行基菩薩の作であると、また、その胎内仏は聖徳太子の製作と伝えられている。

かつて、元・箱根権現奥の院に安置されていたが、明治の廃仏毀釈の折、萬福寺に深縁あるの故をもって、箱根権現別当より萬福寺が譲り受けた。

親鸞聖人が帰洛の途中、箱根の険阻を越えて箱根権現にさしかかった際、箱根権現の示現を受けた神官たちが聖人を迎え饗応し奉ったと伝えられている。このことは、覚如上人によって執筆された『本願寺聖人伝絵』に描かれている。親鸞聖人をして「わが尊敬すべき客人・・・」という示現を与えた方が阿弥陀仏。すなわち、箱根権現のご本地仏であった阿弥陀如来尊像であると伝承されている。

明治の末期から大正にかけて、箱根神社との間で、阿弥陀如来尊像を返す、返さないという紛争。

世に言う箱根神仏の争いとして10年近く続いた。あるとき、箱根神社側は夜陰に乗じて阿弥陀如来尊像を盗みに来た。

萬福寺は、門徒の協力を得て毎晩交替で寺に泊り込み警備に当たっていた。この事情を聞いた当時の浅草本願寺とその周辺寺院が、発起人となって浄財を集め金庫を寄進して下さった。このことにより萬福寺は、平常は金庫に納め、ご縁のある方々の参詣時にご開帳して縁起を伝えている。



阿弥陀如来立像

